

1993年11月15日発行 1975年2月28日第3種郵便物認可  
毎月1回15日発行  
定価／150円  
年間購読料／2,000円  
(送料共)

編集／緑の地球ネットワーク  
Green Earth Network

大阪市港区市岡元町3丁目9-16 西建ビル  
TEL.06-583-1719 FAX.06-583-1739 (番552)  
郵便振替 大阪4-128465  
COM21 通巻315号 発行/COM企画室

# 緑の地球 **GREEN EARTH**

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

- 深まる黄土高原の緑化協力…………P5
- 北海道の森林破壊とアイヌ民族……P6



30年でりっぱな林になった渋源県のカラマツ

1993・11  
**21**

# GENの強化に力を！

## ぜひ会員になってください

この間の会報「緑の地球」をごらんになっておわかりいただけたと思いますが、私たちの緑の国際協力は、中国黄土高原でも、ネパールでもまずは順調に進行しています。とくに黄土高原の緑化協力は、郵政省国際ボランティア貯金、環境事業団地球環境基金（渾源県・靈丘県の山地について内定）、大阪コミュニティ財団などの助成をえて、協力の現地では、当初の予定より規模も大きく、スピーディに進行しています。

いま最大の問題は、協力地点が決まりこれから開始するネパールの緑化協力資金と、日本国内の日常の活動を支える態勢づくりです。会員になってく

ださる方も徐々に増え、また経費を極力節減し、なんとか資金面でも整合性のある運営を心がけていますが、活動の広がりと資金の調達にまだまだ時間差のあるのが実情です。

みなさんのご協力で、この時期の困難をなんとしてでも乗り切りたいと思います。おりからの不況のなかで、みなさんさまざまな事情をおもちのこととは思いますが、ぜひともご協力をお願いいたします。

### ①会員になってください！

みなさんの会費は活動を生み出す源泉です。

### ●会費（1口1年分）

一般会員	12,000円
------	---------

家族会員（2人めから）	6,000円
学生会員（高校生以上）	3,000円
ジュニア会員（小中学生）	1,000円
団体会員	12,000円
賛助会員	100,000円

（以上の会費には会報の購読料が含まれています）。

### ②会報を購読してください！

会報の購読者がふえることは、私たちの活動の生命線です。ぜひ周囲の方にもすすめてください。

### 1年分（送料とも） 2,000円

### ③緑化資金にご協力ください！

金額は問いません。コーヒー1杯、ケーキ1個ぶんでも、ネパールや黄土高原ではびっくりするほど大きく役立つことができます。協力地域などに希望があれば、「〇〇緑化基金」と指定してください。

よろしくお願ひします。

## 中国・黄土高原の緑化協力 中国側も熱の入った取組み

9月5日から約4週間、高見世話人が山西省の黄土高原を訪問しました。7月10日の機構改革で、行政単位としての雁北地区がなくなり、渾源、大同、靈丘などの県は大同市に、懷仁、応県は朔州市に合併したため、協力関係の調整も目的のひとつでした。

郵政省の国際ボランティア貯金の寄附金など合計23.6万元（1元=19.1

### 恒山森林公園の見本園に 種子などのご協力を！

渾源県の恒山森林公園に「引種園」（見本園・70ha）が設置され、中国北方の樹木とともに、日本など外国の樹種も試験栽培されます。多様な植生を回復する足がかりとして現地でも期待されています。

来春には国営中心苗圃にそのための苗畑ができますので、寒さ、乾燥、アルカリ土質に耐えると思われる樹種の種子、情報などを提供してくださるようお願いします（日本の各地の植物園などにもお願いしています）。94年3月に1回目を届けます。

円）を、(1)渾源県西留郷、(2)恒山、(3)恒山国家森林公園の見本園、(4)大同県徐町郷、(5)応県西朱庄郷、(6)懷仁県新家園の苗圃、(7)靈丘県上寨鎮に無事に届けました。大同市での贈呈式のようすはテレビニュースと新聞で報道されました。

大同市の関係者は「日本からの協力1にたいして、自分たちは2以上の投資をしてかならず成功させる」と、その熱意を語っています。

別項の報告のように、渾源県と靈丘県の山地で新しく協力を始めますが、

### 大阪コミュニティ財団から 助成金をいただきました

大阪コミュニティ財団から、緑の地球ネットワークがすすめる中国黄土高原における緑化協力にたいして、このほど30万円の助成金が寄せられました。同財団は、中小企業やグループ、個人などが寄附金を寄せあい、社会的に有意義な活動を助成していこうとい

本報記 昨日下午，在一阵阵热烈的掌声中，日本全国绿色地球网络组织向共青团大同市委捐赠合作绿化款23.6万元，并当场举行了签字仪式。

日本全国绿色地球网络组织是一个民间组织，共有会员400余人。1991年，经团中央介绍，该组织正式与原雁北团地委进行合作，共同绿化桑干河、浑源恒山风景区、大同县徐町乡等地。此后，这个组织的会员自己出钱，先后为上述地区提供绿化资金15万元。在双方的共同努力下，现已植树27万株，达1425亩。今年4月，该组织经过努力，又将到日本国邮政省国际志愿者补助金约40万元人民币，他们将把这笔钱捐赠给我市，用于合作绿化。目前，第一笔捐款23.6万元已由该组织世通人高见邦雄先生送到我市。

在签字仪式上，团市委书记邵向华表示，一定要用好这笔钱，让大同市更多的荒山秃岭披上绿装，让象征中日友好的绿色林带茁壮成长。

高见邦雄先生说，我们高兴地看到，中日友谊林正在扩展，绿色植被正在增加，我衷心希望共青团把这项工作搞得更好。

高见邦雄先生将在我市停留半月，对合作绿化地区进行考察。（刘建平）

緑化資金贈呈式の新聞報道（大同日報）  
環境事業団の地球環境基金の助成が内定したこともあるって、それもスムーズなスタートができそうです。

うもので、大阪商工会議所の音頭で成立了。

92年の地球環境会議までは、企業などの環境問題への関わりも盛んでしたが、その後の経済の悪化にともない、「背に腹は変えられない」状況も強まっています。

それだけに今回の助成には意義があり、私たちにとってもありがたいものです。黄土高原の緑化に役立つよう、有効に活用したいと思います。

日本全国绿色地球网络组织向  
团市委捐赠合作  
绿化资金



## GEN・自然と親しむ会 京都の北山杉となかよくして…

10月3日、「自然と親しむ会」は京都の北山を訪れ、資料館と山林を見学し、丸太磨きを行いました。

北山杉というのは、そういう種類の杉があるのではなく、北山で作られた杉というだけのことだそうだ。もっぱら床柱などのような化粧材に用いられるもので、一般的な建築材ではない。太さも決まっていて、だいたい20年で規定の太さにするという。植物の成長速度は光合成の量で決まるから、下の枝葉を落とし、残す上部の葉の量で成長

をコントロールするそうだ。太くならないようにダイエットした、よく身の縮まった杉である。

資料館に入るとすぐ、天然の模様入り杉丸太が目に入る。貴重なもので値段も高い。名前もついていたが忘れてしまった。普通の杉は模様がないから、木の周囲に適当な形のプラスチック材を巻き付けて模様を付ける。

切り出された杉は皮を剥かれ、女性の手で砂で磨かれる。この作業は、花筒などを作る作業として（有料）や

らせてもらえるから、希望者は行くといい。

昔の写真の中に、女性が杉丸太を頭に乗せているものがあった。聞くと、丸太の輸送は女性がやっていたとのこと。京都市内まで運んでいたそうで、文字どおり重労働だ。

自然に育った杉ではなく、自然と人間（人間も自然の一部だが）が共同で作りあげた北山杉と少し仲良くなつた一日だった。（川島和義）

## 夏のワーキングツアー 報告会が開かれる

10月14日、弁天町市民学習センターで、1993年夏の黄土高原ワーキングツアーの報告会が開かれました。ツアーの参加者（14人）、以前のツアーの参加者を含む28人が参加し、山西省における緑化協力の現状について語り合いました。

ツアーでは広い黄土高原のほんのはしこを見て来たにすぎませんが、土壤流失に対して積極的な対策を講じていないように見える渾源県の農業や、

数少ない樹種に限られた植林などに対する疑問も提出されました。また、若い参加者からは作業が少なかったという意見が出ましたが、西留郷にヤオトンが作られ、徐町郷政府に宿泊が可能になる来年からは早朝からの作業もできるようになります。現地で農業をより近くから見て、農民と交流する機会もより多くなるでしょう。

高見世話人が打合せをしてきた恒山森林公園の引種園（見本園）への協力、新たな協力地である靈丘県でのプロジェクトなど、ますますネットワークは広がっていきます。

### ネパール考察団報告会

#### 息をのむ自然の厳しさ

10月19日のネパール報告会は、スライドを見ながらだった。

自然のものすごさが自分の想像力をはるかに超えていて絶句した。切り立った岩と砂ばかりの白い山が延々と続

いて、人間を寄せつけないたたずまいに恐怖さえ感じた。どうやってこんな自然と取り組むことができるのか、ムリだと思った。無力感がつのるばかり。でも、今回の訪問で決まったこと、さし迫った具体的な行動予定、今後の計画など、聞くうちに「失われた（すなわち元はあった）緑の回復」が可能性あるものに思えてきた。

苗畠や家を建てる予定のサウル村がやがて私たちの親しみの場所となるのだろう。私には、何ができるのか、正直のところさっぱりわからない。でもあの恐ろしい風景のなかを歩いてみたいという誘惑に、今かられている。東間さんの熱意と佐野さんの静かな闘志……二人の目には炎がメラメラと燃え立っていた……。時間をかけて、一歩ずつ前進すれば、きっとネパールと、サウル村と人々に近づけると思った。今のうちに足を鍛えとこ！（来週も六甲山縦走40km、行きまっせ！）

（白形光江）



緑化協力の現状を語りあう

## 先住民族とともに祈り ともに生きる！

セイクリッド・ラン日本事務局代表

### 堀越由美子さんを囲む車座トーク

自然環境と調和・共生する生き方から逸脱した人類は、すさまじい環境危機のただなかにあります。私たちの日々のあり方と根源的生き方を求めて、「いま、なぜ先住民族なのか」を問い合わせ、語り合いましょう！

■11月13日（土）午後1時30分～5時

■大阪市立弁天町市民学習センター 参加費 500円  
(JR・地下鉄「弁天町」ORC2番街7階)

## 自然と親しむ会 Xmas用トピアリ作り

神戸市立森林植物園周辺で、木の実や枯れ葉を採集して、Xmasツリー風のトピアリを作ります。講師はフラワーデザイナーの田中まさみさん。交通の便が悪いので、つごうのつく人は車で来てください。雨の日でもあります。弁当を各自で準備してください。参加される方は12月1日までに必ず連絡を！（☎ 06-583-1719まで）

◆12月5日（日）午前9時30分

◆三宮そごう百貨店東側市バス乗り場集合  
参加費 1000円（つくれない人 500円）

## 関久子さんらが渾源県林学会の名誉会員に

関西で平和・環境運動にたずさわるものにとって、92歳でお現役の大先輩・関久子さんは憧れの人です。緑の地球ネットワークの発足時から熱心な賛同と協力をいただき、私たちにとってかけがえのない精神的支柱です。また同じく高齢の立野正一さん、松沢由夫さんにも、緑の下の力持ちとして、まだこの計画がどうなるかわからない難しい時期から支えつづけていただきました。

協力団で行くたびにその話をしていたら、現地の人たちがたいへん感動さ

れ、渾源県林学会の名誉会員になってもらおうという話になり、このたび大同市で批准されました。

そのことを関さんに伝えたら、案の定、「いや、私なんかが……」ということでしたが、最終的に「もっとがんばれということやろ。体調さえよければ来春こそは恒山に木を植えたい」と受けさせていただきました。関さん、立野さん、松沢さん、人生の案内役として、このしごとの守り役として、これからも元気に私たちを導きつづけてください。(高見)

## 大阪港郵便局で緑化協力の報告会を開催

10月14日午後、大阪港郵便局で国際ボランティア貯金の寄附金配分をうけているNGO活動の報告会があり、緑の地球ネットワークの黄土高原緑化協力の進行状況を報告しました。同貯金推進協議会の主催によるもので、関係

者や地域の住民など50人ほどの参加がありました。

郵便局長などのあいさつのあと、5月の緑化協力団に参加された朝日新聞の草陽一さんと高見世話人が、この間の緑化協力の進展状況について報告しました。自然環境の厳しさ、そのなかで緑化のもつ意味など、質問もたくさんでて、国際ボランティア貯金が具体的に活用されているようすを、たいへん

## 山西省の自然

石原忠一  
(92年緑化協力団団長)

### ⑮トウヒ (雲杉 *Picea*)

渾源から西の方 160kmに桑干河の源流があります。固有種の褐馬鶲(山西省の鳥)が棲息していることを知っていましたので、『潜在植生として恒山一帯の山々も古くはこうであったと考

えられます。高見さんがこんど渡晋したら、芦芽山(2784m)自然保護区を視察してください』と頼んでおいたところ、『山岳地帯の森に雲杉(白扦と青扦)がみられました』と写真をつけての報告です。

私が初めて *Picea*(トウヒ属)にお目にかかったとき、メタセコイアの三木茂先生と一緒にでした。日本生態学会の野外実習で今年の9月、奈良の菅沼孝之先生の案内で「倒木更新」という特別の方式で世代をつなぐ大台が原(標高1,500m、降水4,000mm)のトウヒ=唐檜(母種はエゾマツ



世界中になかまの多いトウヒ(雲杉)

ん熱心に聞いてもらいました。

それに先立って、港郵便局の窓口で1週間あまり黄土高原緑化協力のパネル展示がおこなわれ、たくさんの利用者の注目を集めました。また報告会の終了後、近くの港市岡郵便局でも2週間、パネル展がおこなわれ、「熱心に見て、話をしている方がありましたよ」ということでした。

## アジア市民大学の講座で黄土高原緑化協力の報告

10月27日夜、アジア市民大学の主催で、アピオおおさかで開かれている連続講座の第2回に「黄土高原の緑化協力」が設けられ、高見世話人が報告をおこないました。パネルを紙芝居ふうにつかい、「黄土」を手で触ってもらいながら話したところ、みなアジア問題に関心の深い人たちで、活発な質問や意見が2次会までつづき、楽しい集まりでした。

### おことわり

ネパールでの緑化協力について、佐野茂樹代表世話人が連載していますが今号は記事が多く、次回に回さざるをえません。ご了承ください。

*Picea jezoensis var. hondoensis* の実生からの苗作りに8年余りかけられた苦労を見せていただき、これらの苗がどんなに貴重かを改めて強く感じました。

マツ属、モミ属、カラマツ属などとともに、北半球の温帯高地から亜寒帯までをおおうマツ科の *Picea*トウヒ属(中国では雲杉、英語ではspruce、ドイツ語ではFichte)は34種が知られています。

恒山に国家森林公園設定が認められ、渾源県の苗圃で世界各地の樹種の播種・育苗計画が進められています。雲杉(白扦、青扦)の苗作りが始まることでしょう。

ところで、ことしもクリスマスが近づきますと、ヨーロッパで酸性雨に痛めつけられているドイツトウヒ *Picea abies* (L)が、日本の花屋さんの店先にたくさん鉢植えで並ぶことでしょう。



# 深まる黄土高原の緑化協力 困難地区の小学校に果樹園を

高見邦雄 (GEN世話人)

夏から秋にかけて大同周辺は雨がなく、乾ききっていました。黄土高原の自然のきびしさを痛感させられました。

温増玉林業局長といっしょに村を訪ねるのは、去年の秋からの私の楽しみです。温さんはいくつもの郷の現場で仕事をしてきたたたきあげの幹部で、どこの村にも知りあいがいます。森林消防の赤いジープが止まると、村の人たちがニコニコ顔で取りまきます。笑顔のお相伴にあずかれるのが、最高にうれしいのです。

今回はじめて県南部の山地に入りました。ここは太行山脈に属し、自然環境も生活もたいへん厳しいところ。

山の中腹に小さな段々畑があり、エンパク（蕪麦＝カラスマギ、前号の1年から5年まで1つの教室で勉強する

しかし林業には希望を感じました。1960年代に植えられたカラマツは樹高10m、胸高直径20cm以上に育って、もうりっぱな林です。土も黒々と肥え、湿りけがあります。林の周辺に自生の苗が育っていますから、かなり安定しているといつていいでしょう。

王庄堡鎮の于進さんは、家族や友人40人を誘って、1983年、84年の2年間に100haの荒れ山にカラマツ30万本を

植えました。それがみごとに育って、彼は何度も労働英雄に選ばれました。こんな人がやっぱりいるんですね。

となりの靈丘県の山地、上寨鎮下寨北村にも行きました。このあたりは石山ばかりで、耕地が1戸あたりわずか3.8a(115坪)、1人あたり年収も170元

(1元=19円)しかありません。村の人の話では「120元だとまあまあの水準」ということですが、食べるのがやっとでしょう。家のなかにも、みごとなほどなにもありません。心づくしのカボチャの煮つけ、ピンポン玉ほどもない桃をいただきました。

小学校をみましたが、ほんとにオンボロ。「危険だから建て替えたいのだが……」とのことです。たまたまか、いつもか、この日は停電で、薄暗い1つの教室で、5年制のすべての児童がいっしょに勉強しています。就学率は76%、5年まで通学し卒業するのは56%。あの子は親のあとについて仕事をしています。通学している子は服装もまあまあですが、働いている子た



石山ばかりで耕地がほとんどみられない

ちのようすにはびっくりしました。

渾源に帰ると、温さんが私の送別会を開いてくれたのですが、あの酒鬼（呑んべ）の劉懷光さんが「その気になれない」といって酒に口をつけません。その村は彼の生まれ故郷の近くなのです。私は前号で西留郷ののんびりした農村風景を書きましたが、ここでは正直なところ、涙をこらえ笑い顔をつくるのに懸命でした。（北京に帰って、中国人の友人にこの話をしましたが、なかなか信じてもらえません）。

いろいろ考えたうえで、私は「ああいう村に果樹の苗を贈り、子どもに植えてもらうことにして、その労賃を就学費用にあてたらどうだろう？」と提案しました。共青団を中心とする困窮地域の就学保障活動=「希望プロジェクト」がありますから、それと連動させることを考えたのです。

彼らは「感謝する。ほんとにいい考えだ」とすぐ賛同し、親密さを深めてくれたのです。山の中腹にサンショウ、クルミ、リンゴなどを植えることができるそうです。

渾源県と靈丘県の山地は、日中戦争にさいし「三光政策」（殺しつくし、焼きつくし、奪いつくす）がはげしく展開されたところで、たくさん犠牲者をだしています。私たちはこれまで歴史のつぐないをしていません。

私たちの緑化協力の活動も、一歩、踏み込む段階にきたようです。



オンボロで危険な小学校の校舎

「山西省の自然」参照)をつくっています。地元の人は「腹持ちがいい」といって歓迎しますが、よそから的人はたいてい下痢をします。

耕地面積が少ないうえに、海拔が1300m以上あり、温度が低く、霜のない期間が90日しかありませんから、農業といつても制約が大きいのです。

# 北海道の森林破壊とアイヌ民族②

武田繁典 (GEN世話人・高校教員)

## 5. 二風谷フォーラム'93

今年8月、国際先住民年を記念して「二風谷フォーラム'93」が開かれました。私は4年前にピープルズ・プラン21世紀北海道の世界先住民族会議に参加して二風谷を訪れました。広々とした河原のなかをゆっくり流れる沙流川、その両側の細長い平地と後ろの山並み。『山岳宗教の源流をゆく・神の山へ』でも紹介されたこの風景はじつにゆったりと私を包んでくれました。その風土にしっかりと根を降ろして生活し、文化を守り育てようとしているアイヌの人々のいきづかい、あたたかさにも触れることができ本当に気にいっていました。

そのアイヌの人達自身が中心になって今年のフォーラムが開かれたのです。世界11カ国、27の先住民族、約60人が出席、私達一般参加も含めて、4日間でのべ4千人が参加しました。

前回に比べ、若者の参加者が多かったこと、沖縄の独自文化を守り育てていこうとしている人達との交流のせいか全体に陽気な活発さがあったこと、地元のアイヌの若いおかあさんと子供達がのびのびと楽しそうに参加したことなどが特に印象に残りました。

さびしかったことは、4年前元気いろいろ話をしてくれた貝澤正さんたち、アイヌのお年寄りが何人か亡くなつて、お会いできなかつたことです。阿寒湖畔のアイヌコタンでも前回お世話になったおばあさんが亡くなつていました。本当にさびしいことです。

## 6. 自然と共生した生活＝ アイヌプリから学ぶ

お年寄りがひとりなくなるとどのぐらいの知識量が消えてしまうのでしょうか。わたしの父母は四国の田舎で82歳、76歳で亡くなりました。それ自身もさびしいことですが、一生やり続けた仕事のこと、趣味として長年やっていた魚釣りやキノコ狩りのことなどに

ひとつ受け継いでいま  
せん。さびしいし、残  
念なことです。

私達は中央集権的な階層社会、科学技術万能の社会の中で、自然や大地とだんだんと切り離された生活をするようになってきています。『母なる大地』という言葉のとおり、食べものも、着るものも、家もエネルギーも

全て大地と自然から生まれていないものはありません。大地から離れては生きられないし、その人の個性も、民族のアイデンティティ（独自性）も生まれて来ないでしょう。アイヌや世界の先住民族の人々とふれあうなかで、「いったい私はなに民族なのだろう、私のアイデンティティは何なのだろう」とつくづく考えさせられます。

私達は、アイヌの人々がすこし前までしていた自然と共に生し、大地に根ざしたアイヌプリの生活から多くのものが学べるのではないでしょうか。地球環境の破壊が危機的なところまでできていると言われている今日、自然の回復と持続的利用をめざして、できるところから手をつけていく必要があると思います。

学ぶ姿勢の前提には「このままではいけない、なんとかしなければ」ということがあります。これは、アイヌ民族と、彼らを侵略した歴史をもつ側の私達との関係にも言えます。歴史を学んで事実を知り、反省の上にたって回復の努力をすることが大切だと思います。二風谷の萱野茂氏はつねづね、『何百年も前からアイヌの土地で勝手に金儲けして発展したんだから、今からでも年貢のつもりでアイヌに金を出す日本人がいても良いではないか』という意味のことを言っています。私はいまアイヌの人が中心に活動している3つの団体にわずかですがカンパを続



フォーラムのあいに外國先住民と交流

けています。自己満足の気休めかも知れませんが、この問題を忘れず、自分に引き付け続けて行くよりどころにはなっています。

## 7. 貝沢正さんの遺志

二風谷に住み、自らを北海道アイヌとよんでいた貝澤正氏は昨年2月、79歳で亡くなりました。4年前の先住民会議の時にはお元気で、萱野茂氏とともに語っているダムの話、山仕事の話などをきかせてくれました。特に印象に残ったのは、苦しい生活の中で借金をして山林を買い、誰の助けがなくても、一人で山に入り、アイヌの昔ながらの森をつくる仕事をしていました。実におだやかに、しかし、いきいきと楽しそうに話されていました。彼の死は新聞などで知っていたのですが、懐かしい沙流川のほとりに立ってやはりさびしさをきんじえません。

しかし、今回、フォーラムで忙しくしている中でしたが、正氏の息子さん夫婦、貝澤耕一さん、美和子さんに会うことができました。美和子さんからは、正氏が亡くなる間際までアイヌの森を取り戻すために、三井物産社長への訴えの手紙を書いたり、ナショナル・トラスト方式で森を守っていく参考に、知床や阿寒を見学して回ったことなどを聞きました。また、7月末に発刊された遺稿集『アイヌわが人生』を手にして、彼のおいたちと遺志に触

れることができました。

貝澤耕一さんは、私達の、緑の地球ネットワークとしてアイヌの森の回復の手伝いをさせて欲しいという申し出に対し、「ナショナル・トラストで山林を買い、毎年1回ぐらいワーキングツアーで来て手入れをしてはどうか。1ヘクタールが300万円ぐらいで買える」とアドバイスしてくれました。アイヌモシリの森林破壊の歴史を見れば、確かに、本来ならば国有林や三井の社有林を国の責任でアイヌ民族に返させるべきです。しかし、今すぐ出来ることとして、またそのような大きな運動を作っていくためのきっかけとしても、ナショナル・トラストの方法は良いのではないかでしょうか。私達が主体的に守り育て、アイヌ民族に返していく森、アイヌ民族と“良き隣人”を意味するアイヌ語のシサムの友好を深める“アイヌ・シサム友好の森”（仮称）。森作りやワーキングツアーの中で、自然と共生したアイヌブリの生活を学び、アイヌの人々との交流も生まれてくれればいいと思います。これは貝澤正氏の遺志を守り育てることにつながると思います。

#### 8. いま一步をふみだそう

北海道新聞は8月11日の社説で『…

…さて「シサム」（隣人）はどうすればよいか。まず、一連の催しなどに参加することから始めたい。互いに理解し合わなければ、事態は動かない。…シサムの側も一步踏み出すときが来ている』と述べています。

私達、緑の地球ネットワークは中国やネパールで、そして日本の農山村で森林回復を軸に活動し、現実に即して多くのものを学んできました。いま、アイヌの聖地二風谷でのナショナル・トラスト“アイヌ・シサム友好の森”

（仮称）作りに一步をふみだそうではありませんか。まず、1ヘクタール（300万円）の募金集めと第1回目のワーキングツアーの実施を目指して活動を始めます。有志の参加と協力をお願いします。共に頑張りましょう。おわり

#### 参考にした図書

- 『アイヌわが人生』貝澤正 岩波書店
- 『アイヌ民族』本多勝一 朝日新聞社
- 『神の山へ』新妻喜永 山と渓谷社
- 『アイヌの本』別冊宝島 宝島社
- 『アイヌ神話集』知里幸恵 岩波文庫
- 『北海道・森と木の文化』鮫島和子ほか 札幌学院大学
- 『北海道の自然保護』俵浩三 北海道大学図書刊行会
- 『近代日本とアイヌ民族』大阪人権歴史資料館



チブサンケ（船おろしの神事）を楽しむ人々

フォーラムに参加した米国のインディアン指導者デニス・バンクスさんは『日本は先住民に学べ』と主張しています。

9月21日の朝日新聞投書欄で、森正朗氏は『アイヌの人と共に存を図ろう…先の戦争で被害を与えたアジアの人々に対する謝罪がいわれているが、私たちは内なる別民族・アイヌの人々に目を向け、謝罪し、共存を図ることが先決だ』と訴えています。

#### アイヌ民族の理解を求めて

アイヌ民族の新法制定を考える集い

北海道ウタリ協会は、アイヌ民族としての尊厳を守り、権利の回復を求めて、差別の絶滅を基本理念とする「アイヌ民族に関する法律」（アイヌ新法）の制定を求めています。そのための集会が下記により開催されます。

◆11月18日（木）18時～20時

◆兵庫県民会館9階大ホール

（神戸市中央区下山手通4-16-3）

ビデオ・「共生への道」

講演・野村義一さん、大塚和義さん  
その他・歴史・文化・アイヌ新法制定などに関するパネル展示

◆11月25日（木）18時～20時

◆金沢市観光会館大集会室

主催・北海道ウタリ協会  
入場無料

#### 世界先住民族音楽会

エスニック ミュージック コンサート'93  
in アイヌ・モシリ（人間の大地）

##### 【出演】

- ・シャロン・バーチ（アメリカ・ナバホ民族女性歌手）
- ・ミヤ・マサオカ（日系3世アメリカ人音楽家）
- ・山本一昭とアイヌ民族舞踏団

##### 【特別出演】

- ・デニス・バンクス（アメリカン・インディアン運動(AIM)創立者で『聖なる魂』の著者）

◆川西市 アステ・ホール 11月24日

◆守口市 市民会館ホール 11月26日

◆なんばアメリカ村 Coke Step Hall

11月27日

いずれも 17：30開場 18：30開演  
前売り 3,000円 高校生以下 2,000円  
GENでチケットを取扱っています。

#### 「いま、私たちの地球は…」

愛華ちゃんの「地球の秘密」より

ピースおおさかで特別展「いま、私たちの地球は…」を開催中です。漫画「地球の秘密」を描きあげ、その夜に12歳の短い生涯を閉じた島根県の小学生・坪田愛華ちゃんの原画が展示されています（小中学生の描いた国連環境ポスター原画展もあわせて）。愛華ちゃんは今年6月北京で、環境の保護や改善で功績のあった人に贈られる国連環境計画(UNEP)の「グローバル500」を受賞しました。

◆11月28日まで（月曜日は休館）

9時30分～17時 入館料大人 250円

◆ピースおおさか

（森の宮、大阪城公園、日生球場前）  
大阪空襲と人々の生活、15年戦争、  
平和の希求など常設展示もどうぞ！

# 黄土高原の緑化協力 パネル展示にご協力ください!

黄土高原緑化協力のパネル展示会はひきつづき各地で継続されています。

7月 大阪市市民環境学習ルーム

8月 兵庫県黒田庄町中央公民館

10月 大阪港郵便局

大阪港市岡郵便局

11月 神戸女学院大学

サイズはB3、合計で35枚ほどありますが、スペースに応じて調整することも可能です。さまざまな機会に展示してこの活動を広げてくださるようお願いいたします。くわしくはGEN事務所(☎ 06-583-1719)まで。

つぎのような反響の手紙も届いています。

**短期間に300人近い人が**

黒田庄町中央公民館

社会教育主事 吉田和弘

先日は大切なパネルをお借りいたしまして誠にありがとうございました。

私どもの町は、人口8千人ほどの小さな町ですが、豊かな自然がたくさん残っています。しかし、こんな町でも開発という名のもとに自然が少しずつこわされていっています。

自然との共生を目指し、地元での取り組みを続けるとともに、地球規模での環境問題を考えていきたいと思います。

短期間の展示でしたが300人近い片に見ていただきました。きっと何かを感じとていただけることができたろうと思っています。またお役に立つことがございましたら、協力させていただきますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

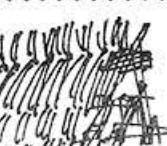
パネルのお礼ということでなく、植樹の助けにでもなればと思い、後になりますが、わずかばかりの気持ちを送らせていただきます。

それでは、貴団体のますますのご活躍を祈念して筆をおきます。

指導して下さったり、手作りパンやつぶしたばかりのトリでもてなして下さった大森さんご一家、本当にありがとうございました。ぜひまた、(自称)お手伝いに伺わせて下さい。元気な子供たち、また作業のやり方を教えてね。

(東川貴子)

## 米不作を実感しました がんばれ! 大森さん



10年前に和田山の過疎の村に入り、農業を営んでいる大森さんの一家のことは以前に紙面で紹介しました。収穫の秋を迎える、援農ではなく単なる邪魔だという声をものともせず、GENのメンバー数人がおしかけました。

おりしも記録的な米の不作が報じられていますが、ここも例外ではなく、まっすぐに立った稭には素人目にでもできの悪さが感じられます。鎌で刈り取った稭を慣れない手つきで束ねながら、できの悪いのは言うと悲しくなるからという大森さんの言葉が耳に残りました。よくても例年の3割のできだらうということです。

大森さん宅の玄関先で、ふたつの小さな流れが合流します。大森さんが作った木の橋がかかり、あひるがのんびり羽つくろいをしています。流れのひとつ、米地川の上流には40万羽の養鶏場があり、降ったりやんだりの滞在中、雨に溶けだした鶏糞で流れは緑がかってどす黒い色になりました。もう一方の下戸川は透明に澄んだ流れです。けれど米地川と、合流点より下流の川底の石や砂はすっかりどす黒く変色してしまっていました。この流れは円山川に、やがては日本海に注ぎ込み

ます。そのほかにも悪臭やハエの発生など、鶏糞の処理をきちんとすればおこらすにすんだはずの問題がおきていますが、養鶏場を単なる卵の工場として十分な設備を怠った生産者の姿勢が問われてしかるべきだと思います。

稻刈り、トリ捌きなどを体験し、農村の暮らしの一端を見てきましたが、残念だったのは炭焼きができないことです。でもいろいろ大変ななか、農作業を



刈った稭の多いのが悲しかった

## 健康ポンカンをどうぞ!

高知の田中さんから便り

GENのみなさんにもすっかりおなじみになった高知県・甲の浦の田中隆一さんからポンカン出荷のおたよりです。“地球にやさしい栽培、からだにやさしいポンカンを”との思いから、除草剤を使わず、減農薬(年2回、最終6月)、有機肥料だけを年3回ほどこした健康ポンカンです。

5kg(大玉・約30個) 化粧箱 3,800円

5kg(大玉・約30個) 普通箱 3,500円

3kg(大玉・約20個) 化粧箱 2,500円

5kg(普通・約35個) 化粧箱 3,300円

5kg(普通・約35個) 普通箱 3,000円

送料は関西 620円、関東 820円(その他の地方はお問い合わせください)

出荷は12月5日ごろから来年2月下旬までです。売上げからGENにカンパしてくださいますので、「GENの紹介」と添えてください。

【連絡先】田中隆一さん

〒781-74 高知県安芸郡東洋町甲の浦

TEL,FAX. 08872-9-2500